

自動梱包機 RQ-8シリーズ トラブルシューティング

機種によっては部品や部品の取付位置、調整方法が異なる場合があります。



RQ-8LD/LS



RQ-8Y



RQ-8



RQ-8FB



RQ-8FBZ



RQ-8IR1/2

【修理調整等作業における安全上の注意】

- 修理調整等作業（以降「修理」）は必ず電源をOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いた状態で行ってください。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないで、必ず電源プラグを持って抜いてください。
- 高温の箇所がございます。手で触れることができるまで十分に冷ましてから修理を行ってください。
- 詰まったPPバンドを手で引っ張るなど、PPバンドに触れる際、エッジで手を切らないように注意をしてください。
- 電源OFFであっても部品を手動で動かす際は手を挟まないように十分に注意をしてください。
- 修理後や修理中に動作確認が必要になる際は、上面テーブルを取り付けた状態で、安全に十分注意を払い確認を行ってください。
- 修理を行っている作業員以外の方が誤って機械を動作させないように修理は1人で行って下さい。
- 取扱と運転に関しては、取扱説明書の諸事項に従い、正しく安全に取扱と運転を行ってください。

項目	チェック項目	ページ
・電源が入らない	1. 電源コードの状態	3
	2. ヒューズの状態	3
・機械が動かない	3. パイロットランプの点滅と点灯	4
	4. ERRORまたはA-LIMITランプの点灯と点滅 <ul style="list-style-type: none"> ◦ ERRORランプが点灯している場合 ◦ ERRORランプが点滅している場合 ◦ A-LIMITが点滅している場合 	4,5
・バンドが接着しない	5. バンドの接着面はどのような状態か <ul style="list-style-type: none"> ◦ ヒーターの温度調整 ◦ ヒーターの掃除 ◦ その他の調整 	6,7
	6. ヒーターに熱がきていない <ul style="list-style-type: none"> ◦ ヒーターセットの交換 	7
・バンドが送られない	7. バンドの通し方	8
	8. タイマーの調整 <ul style="list-style-type: none"> ◦ T2ダイヤルの設定 	8
	9. バンドが勢いよく送られているか <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正転タッチ圧の調整 	9
	10. プールボックスのバンド量	9
	11. バンドが詰まっていないか <ul style="list-style-type: none"> ◦ フィードシューター内のバンドつまり除去 	10
	12. バンドが飛び出してしまう <ul style="list-style-type: none"> ◦ 右バンドウェイセットの位置調整 ◦ 左バンドウェイ入口の調整 	11
	13. ベルトの消耗やベルトのゆるみ <ul style="list-style-type: none"> ◦ 330J(340J)の調整と交換 	12
	14. 正転ローラーの汚れ <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正転ローラーの掃除 	12
	15. ソレノイドの動き <ul style="list-style-type: none"> ◦ ソレノイドプランジャーの掃除 	13
	16. 電磁ブレーキと原点位置	13

項目	チェック項目	ページ
・バンドが締まらない	17. T1ダイヤルの設定	14
	18. 逆転ローラーの汚れ ◎逆転ローラーの掃除	14
	19. センサーLS-5の反応	14
	20. 逆転タッチローラーの回転 ◎ストッパーボルトの調整 ◎フィードシューターカバーの調整	15
	21. 逆転タッチ圧 ◎逆転タッチ圧の調整	16
	22. ベルトの消耗やベルトのゆるみ ◎330J(340J)、M-36の調整と交換	16
	23. プールボックスのバンド量	16
	24. テンションローラーの摩耗 ◎テンションローラーの交換	17
	25. ソレノイドの動き ◎ソレノイドプランジャーの掃除・部品交換	17
	26. アーチカバーの隙間	17
	27. 電磁ブレーキの効きと原点位置 ◎電磁ブレーキの掃除と調整 ◎原点位置の調整	18
・プールボックスにバンドがたまらない	28. バランスバーの動き ◎バランスバーの修正または交換	19
	29. プールボックスのバンド量 ◎プールボックスのバンド量調整	19
	30. LS-4の反応	20
	31. ブレーキベルト ◎ブレーキベルトセットの交換	21
・バンドが切れない	32. バンドのカット面を確認	22
・ベルトの交換	33. ベルトの交換 ◎330J(340J)、A-23、M-36の交換	23
・営業拠点一覧		24

・電源が入らない。

【チェック項目 1】 電源コードの状態

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

- ・電源コードの被覆が破れている、あるいはコンセントが
破損している場合は、感電の恐れがありますので、
確認作業は行わないでください。

■ 点検・修理方法： 電源コードの確認

別のコンセントにつないで、電源がONするか確認します。



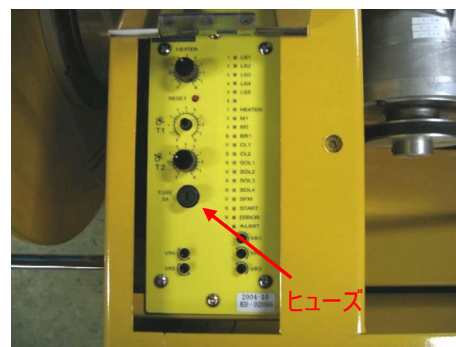
【チェック項目 2】 ヒューズの状態

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

- ・電源ONの状態ではューズの脱着を行うとショートする
可能性があります。必ず電源をOFFにし、電源プラグを
コンセントから抜いた状態で作業を行ってください。

■ 点検・修理方法： ヒューズの確認と交換

電源をOFFにし、電源コードを抜いた後、ヒューズを
確認します。ヒューズが切れていたら交換をして下さい。



・機械が動かない

【チェック項目 3】 パイロットランプの点滅と点灯

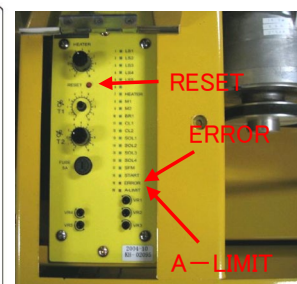
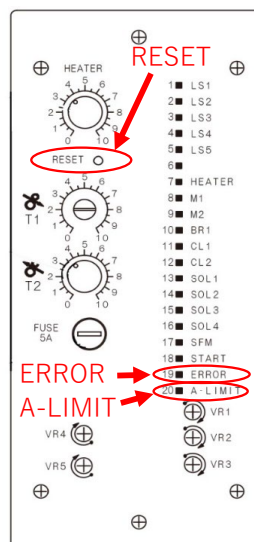
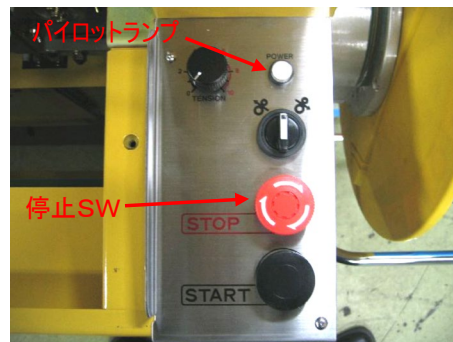
注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法：パイロットランプが点滅している場合

- 電源を入れて30秒間はヒーター昇温中のため起動しません。
- バンドが終了した場合(LS-3がONの場合)は、1梱包後にパイロットランプが点滅し、機械が停止します。

■ 点検・修理方法：パイロットランプが点灯している場合

- 停止SWが入っています。解除しても動かない場合は、販売店またはストラパックの最寄り営業拠点(P.24参照)にご相談ください。



【チェック項目 4】 ERRORまたはA-LIMITの点灯と点滅

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法：ERRORランプが点灯している場合

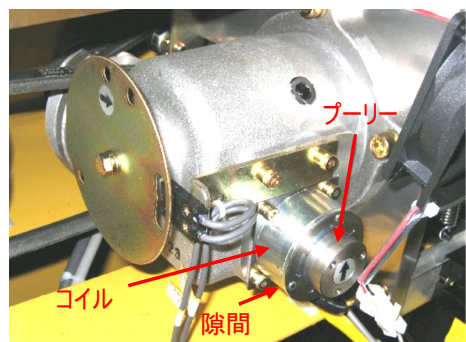
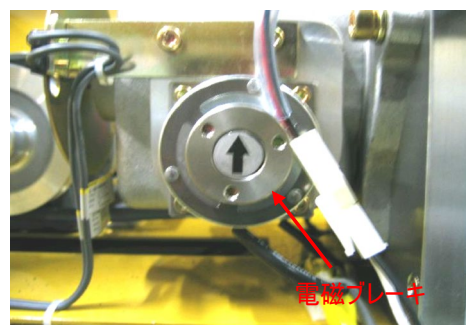
RESETを押しても再点灯する場合は、M1モーターの過負荷異常です。

※ M1モーター:コントロール用のモーター

対策：電磁ブレーキの掃除

原因の一つとして、電磁ブレーキの動作(開放)が悪く、モーター過負荷が発生していることが考えられます。電磁ブレーキを分解、掃除し、組み直します。

⇒「電磁ブレーキの掃除と調整方法」は18ページをご参照ください。



注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

- 点検・修理方法: ERRORランプが点滅している場合
RESETを押しても再点滅する場合は、M2モーターの
過負荷異常です。
※ M2モーター: プール用のモーター

対策: ブレーキベルトセットの交換

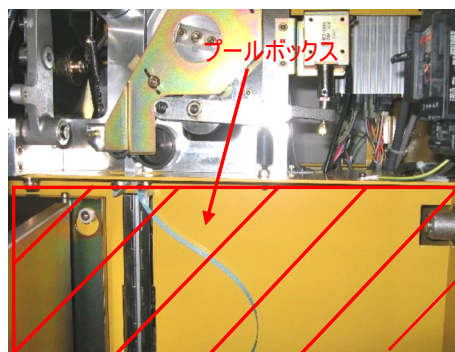
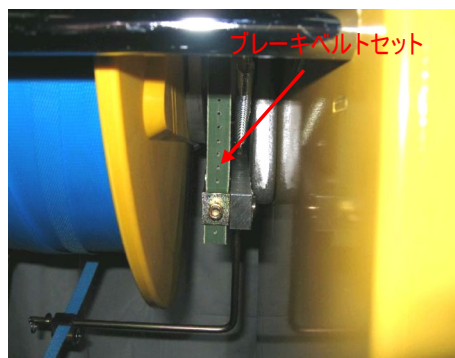
原因の一つとして、ブレーキベルトセットの消耗が考えら
れるため、ブレーキベルトセットを交換します。

⇒ 「ブレーキベルトセットの交換」は21ページを
ご参照ください。

- 点検・修理方法: A-LIMITが点滅している場合

- バンドがなくなっています。バンドを交換し、
RESETを押します。
- プールボックスのバンド溜まり不良で点滅する
場合があります。プールボックスの点検をします。

⇒ 19～21ページの「プールボックスにバンドが
たまらない」をご参照ください。



・バンドが接着しない

【チェック項目 5】 バンドの接着面はどのような状態か

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

- ・ 温度確認の際、直接手で触る、あるいは周辺に手を近づけると火傷の原因になります。絶対に行わないでください。
- ・ ヒーターセットの交換や清掃の際、ヒーター部を手で触れることができるまで十分に冷ましてから作業を行ってください。

■ 点検・修理方法： ヒーターの温度調整

制御ボックスにある、ヒーター温度調整ダイヤルで調整を行います。

サンプル①:ヒーター温度が適正な例

接着部分をはがした時に白くなっています。

サンプル②:ヒーター温度が低い例

接着部分をはがした時に白くなっておらず、表面がザラついています。温度が低い状態です。

⇒ ヒーター温度調整ダイヤルを上げます。

サンプル③:ヒーター温度が高い例

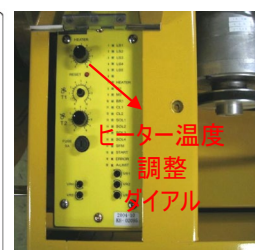
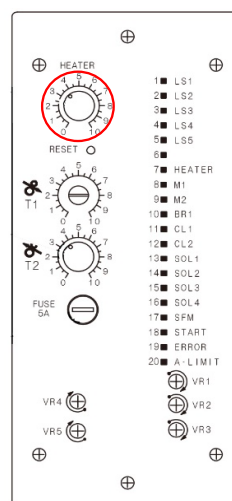
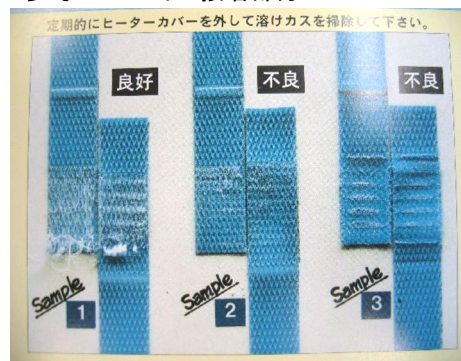
接着部分をはがした時に白くならず、表面がザラついています。また、溶解部の幅が広がっています。温度が高すぎても接着をしません。

⇒ ヒーター温度調整ダイヤルを下げます。

温度調整及び調整後の注意事項

- ・ 温度調整時はボリュームを大幅に回さずに少しずつ調整してください。
- ・ 調整後、1分程経過してからテストします。

参考:PPバンドの接着部分



- 注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。
- ・ 温度確認の際、直接手で触る、あるいは周辺に手を近づけると火傷の原因になります。絶対に行わないでください。
 - ・ ヒーターセットの交換や清掃の際、ヒーター部を手で触れることができるまで十分に冷ましてから作業を行ってください。

■ 点検・修理方法： ヒーターの掃除

温度調整を行っても効果が出ない場合は、ヒータープレート上下の汚れを掃除します。

ヒーター掃除の手順

- 1 ①のプラスネジ×2本を外します。
- 2 ヒーターSPを外し、ヒータープレートの上下(裏表)についている汚れを落とします。

■ 点検・修理方法： その他の調整

③のキャップボルト×2本に緩みがあると溶着が安定しないため、緩みを確認します。

【チェック項目 6】 ヒーターに熱がきていない

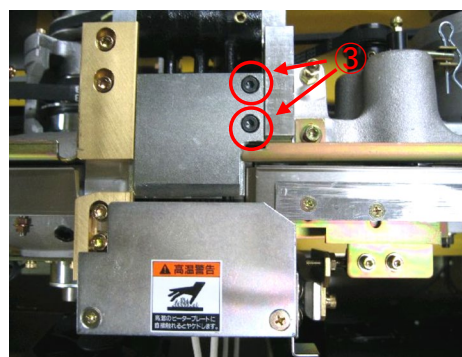
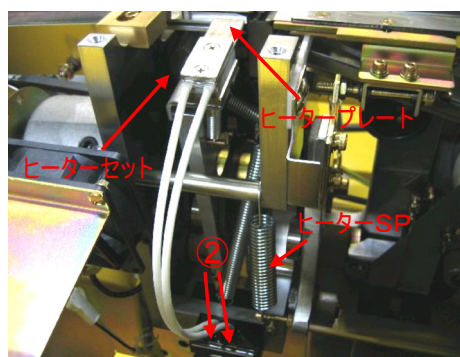
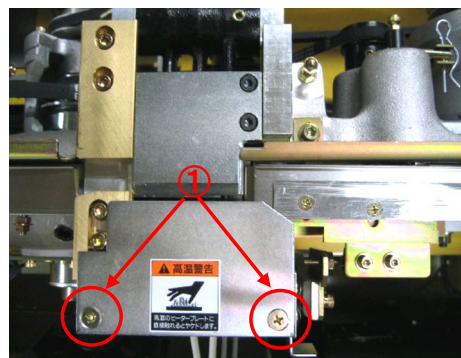
- 注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。
- ・ 温度確認の際、直接手で触る、あるいは周辺に手を近づけると火傷の原因になります。絶対に行わないでください。
 - ・ ヒーターセットの交換や清掃の際、ヒーター部を手で触れることができるまで十分に冷ましてから作業を行ってください。

■ 点検・修理方法： ヒーターセットの交換

PPバンドに溶けた跡がない場合、ヒーター線が断線している可能性があるため、ヒーターセットを交換します。

ヒーターセットの交換手順

- 1 ①のプラスネジ×2本を外します。
- 2 ②のプラスネジ×2本を外します。
- 3 ヒーターSPを外します。
- 4 ヒーターセットを交換します。



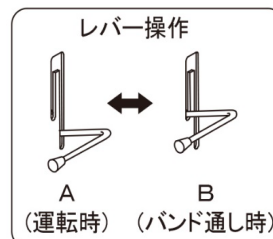
・バンドが送られない

【チェック項目 7】 バンドの通し方

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: バンドの装着 及び 通し方

正しいバンドの通し方は図の通りです。
また、タッチレバーがA(運転時)の位置になっているか確認してください。



【チェック項目 8】 タイマーの調整

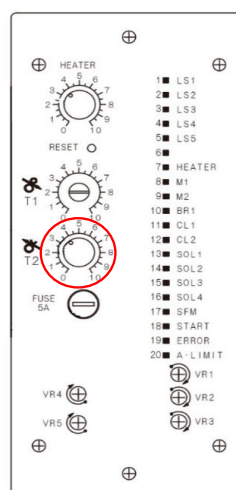
注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: T2ダイヤルの調整

バンドが最後まで送られない場合はT2ダイヤルを右に回し、バンドを送る時間を長くします。

T2ボリューム調整時の注意事項

- 標準機(アーチサイズW650×H500)の場合、設定位置が7程度になります。
- ボリュームを大幅に回しすぎると、アーチからバンドが飛び出す恐れがあります。0.5～1目盛ずつ回してください。

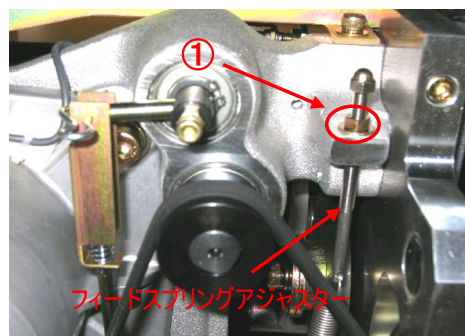


【チェック項目 9】 バンドが勢いよく送られているか

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法： 正転タッチ圧の調整

バンドが勢いよく送られていない場合、正転タッチ圧を調整します。



正転タッチ圧の調整方法

- 1 ①のロックナットを緩めます。
- 2 フィードスプリングアジャスターを左に回すとバンドを送る力が強くなります。

調整後の注意事項

フィードスプリングアジャスターは1回転ずつ回してください。回しすぎるとバンドの勢いが強くなりすぎて、アーチからバンドが飛び出すなど、別のトラブルにつながります。

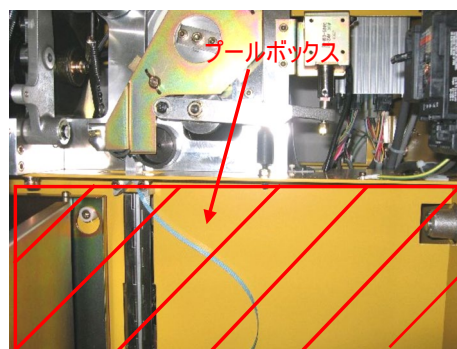
【チェック項目 10】 プールボックスのバンド量

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法： プールボックスのバンド量調整

プールボックスには、通常アーチサイズの1.5倍のバンドが溜まっています。量が少なくても、多すぎてもバンドが送られない原因になるため調整します。

⇒ 19ページの「プールボックスのバンド量調整」をご参照ください。



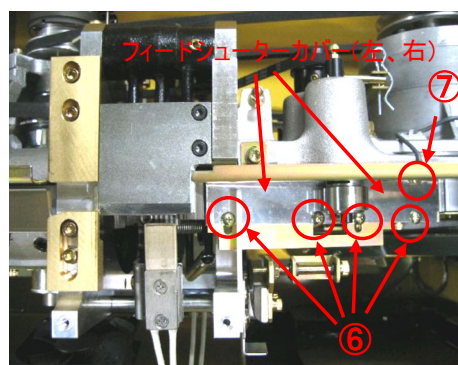
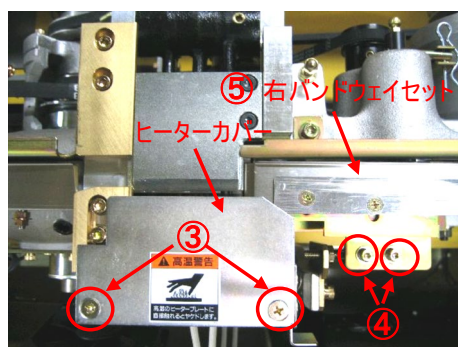
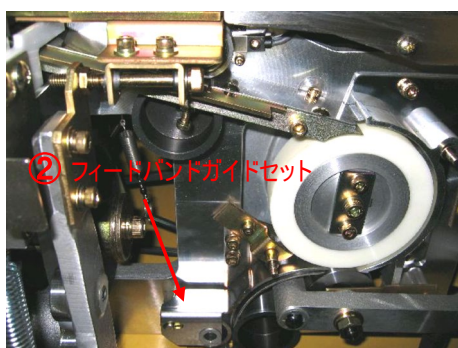
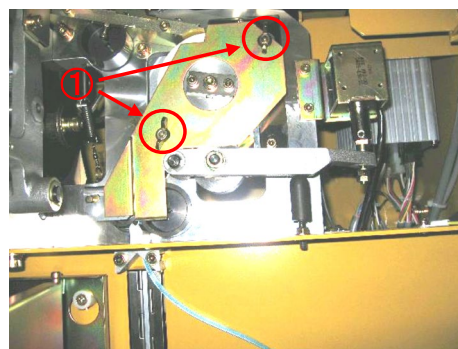
【チェック項目 11】 バンドが詰まっているか

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

- 点検・修理方法: フィードシューター内のバンドつまり除去
フィードシューターにバンドが詰まると、バンドが送られ
なくなるため、詰まったバンドを取り除きます。

フィードシューターの分解方法

- 1 ①の蝶ナットを外します。
- 2 ②フィードバンドガイドセットを外します。
- 3 ③のプラスネジ×2本を外し、ヒーター
カバーを取り外します。
- 4 ④のキャップボルト×2本を外します。
- 5 ⑤右バンドウェイセットを外します。
- 6 ⑥のプラスネジ×4本を外します。
- 7 ⑦のキャップボルト×1本を緩めます。
- 8 フィードシューターカバー(左、右)を外します。
- 9 バンドの通路を掃除し、組みなおします。

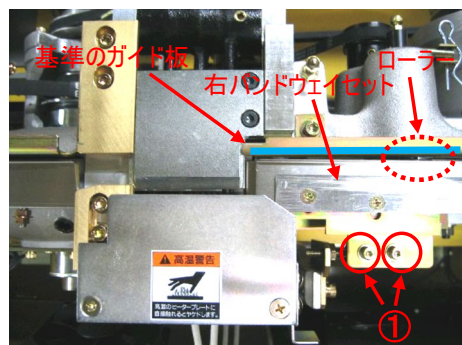


【チェック項目 12】 バンドが飛び出してしまう

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法： 右バンドウェイセットの位置調整

右バンドウェイと基準のガイド板との隙間が広い場合は調整をしてください。

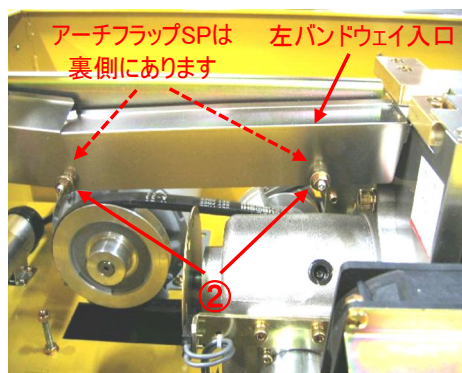


右バンドウェイセットの調整方法

- 1 ①のキャップボルト×2本を緩めます
- 2 上から目視した際に、ローラーが少しでも確認できる位置に調整してください。
- 3 奥側の基準のガイド板に対し、2mm程度の隙間がある状態に右バンドウェイを調整してください。

■ 点検・修理方法： 左バンドウェイ入口の調整

左バンドウェイ入口を取り付けているアーチフラップSPが弱い場合は調整、あるいはアーチフラップSPの交換をしてください。



左バンドウェイ入口の調整方法

- 1 ②のロックナット(外側のナット)を緩めます。
- 2 左バンドウェイ入口に接しているナットを右に回すと左バンドウェイ入口が開く力が強くなります。
- 3 ②のロックナットを締めます。

調整時の注意事項

ナットは半回転ずつ回して調整してください。

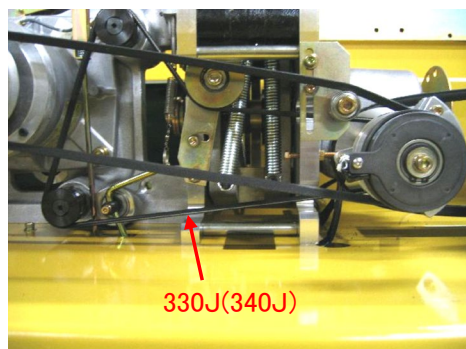
【チェック項目 13】 ベルトの消耗やベルトのゆるみ

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: 330J(340J)の調整と交換

ベルト330J(340J)が消耗している、あるいは緩んでいる場合バンドの送りが安定しません。調整または交換を行います。

⇒ 23ページの「ベルトの交換方法」をご参照ください。



【チェック項目 14】 正転ローラーの汚れ

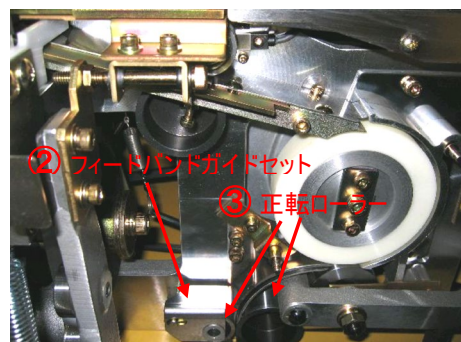
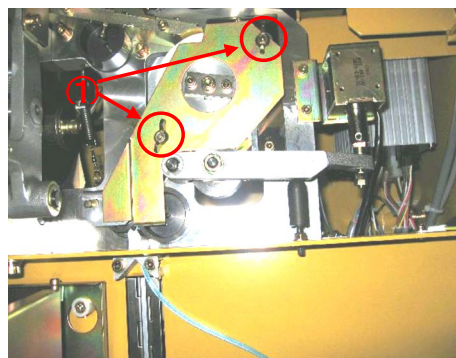
注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: 正転ローラーの掃除

正転ローラーに汚れが付着している場合、清掃を行います。

正転ローラーの掃除方法

- 1 ①の蝶ナットを外します。
- 2 ②フィードバンドガイドセットを外します。
- 3 ③のローラーを掃除します。

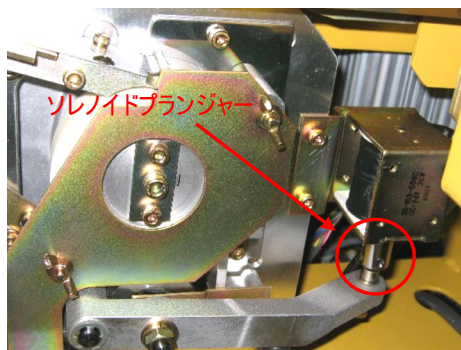
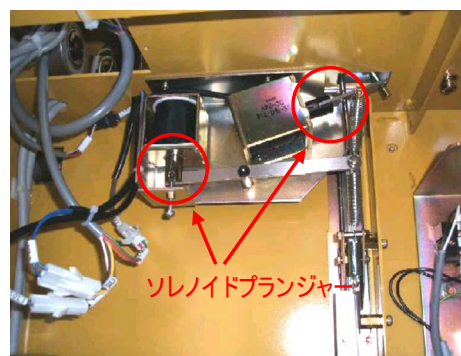


【チェック項目 15】 ソレノイドの動き

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: ソレノイドプランジャーの掃除

ソレノイドプランジャーを手で動かしたとき、軽く動かない場合、ソレノイドプランジャー部分を掃除します。



【チェック項目 16】 電磁ブレーキと 原点位置

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

正常な原点位置は機械が停止しているとき、

- ・ 「カムの目印穴」と「割ピン」が水平に近い写真のような状態で
- ・ 「矢印」の向きが真上から左右45度以内の位置となります。

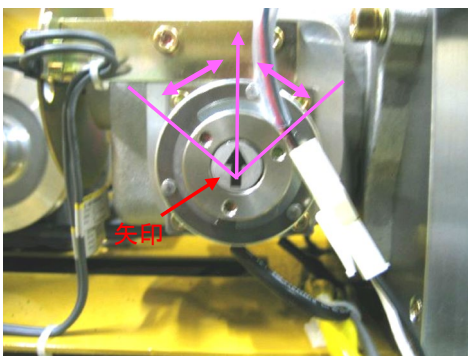
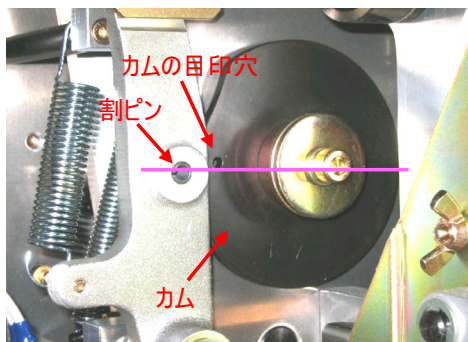
原点位置がずれている場合は「電磁ブレーキの掃除」あるいは「原点位置の調整」を行います。

■ 点検・修理方法: 電磁ブレーキの掃除と調整

⇒ 18ページの「電磁ブレーキの掃除と調整」をご参照ください。

■ 点検・修理方法: 原点位置の調整

⇒ 18ページの「原点位置の調整」をご参照ください。



・バンドが締まらない。

【チェック項目 17】 T1ダイヤルの設定

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

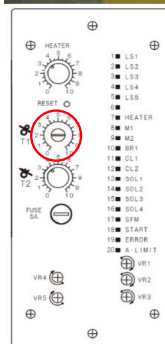
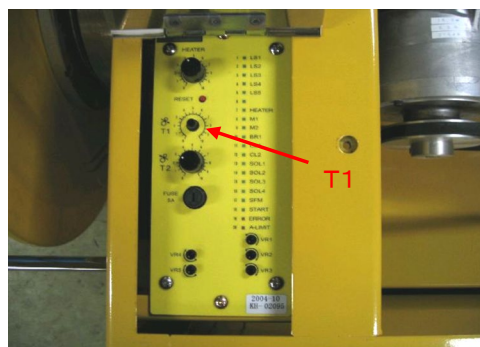
■ 点検・修理方法: T1ダイヤルの調整

T1ダイヤルの設定が不足している場合、梱包物にバンドが巻付かずに着着動作に入ることがあります(途中結束になる場合があります)。

T1ダイヤルの設定方法

途中結束をする場合はダイヤルを上げます。

標準機(アーチサイズ内寸W650×H500)の設定値は7程度の位置になります。

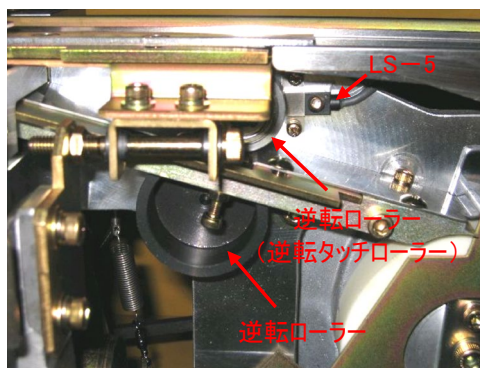


【チェック項目 18】 逆転ローラーの汚れ

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: 逆転ローラーの掃除

上下の逆転ローラーに汚れが付着している場合、掃除を行います。



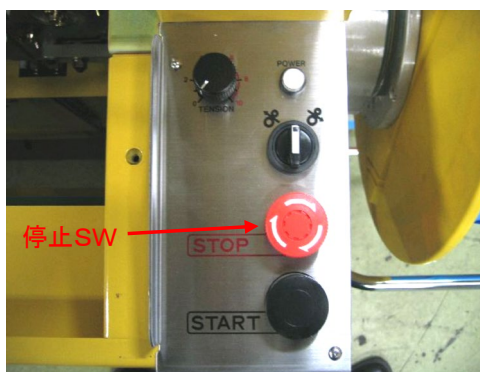
【チェック項目 19】 センサーLS-5の反応

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

- ・本項目では電源をONにした状態で確認を行います。必ず停止SWを押し、機械を動かない状態にしたうえで確認を行ってください。

■ 点検・修理方法: センサーLS-5の反応確認

指でタッチローラーを回転させ、LS-5が赤く点滅しない場合はLS-5が故障しています。交換をしてください。



【チェック項目 20】 逆転タッチローラーの回転

- 注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。
- ・本項目では電源をONにした状態で確認を行います。機械を動作させながら確認を行いますので、機械内部に絶対に手などを入れないよう、そして安全に十分注意を払いながら確認を行ってください。

■ 点検・修理方法： 逆転タッチローラーの回転調整

バンドをセットせずに、正逆SWで逆転させて逆転タッチローラーの回転を確認します。

逆転タッチローラーが回転していない場合【その1】

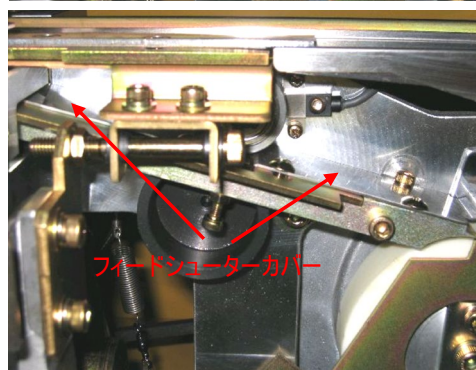
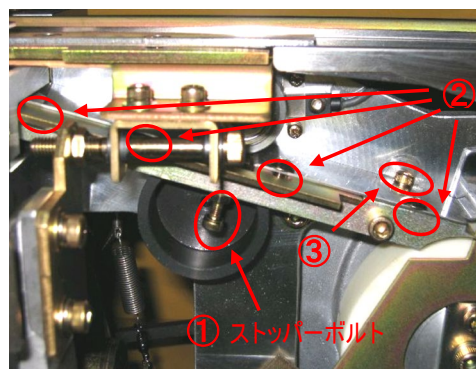
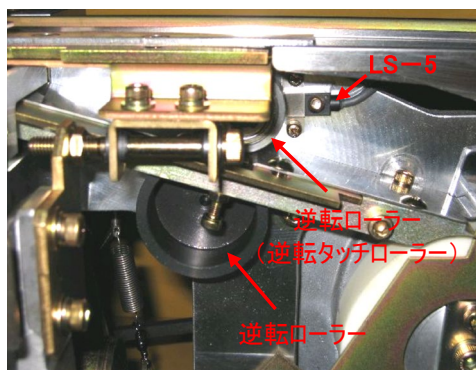
⇒ ストッパーボルトの調整

ロックナットを緩め①ストッパーボルトを下げて、逆転タッチローラーが逆転ローラーにあたる力を強めます。

逆転タッチローラーが回転していない場合【その2】

⇒ フィードシューターカバーの調整

②プラスネジ×4本と③キャップボルトを緩めフィードシューターカバーを左右に広げてセットします。



【チェック項目 21】 逆転タッチ圧

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: 逆転タッチ圧の調整

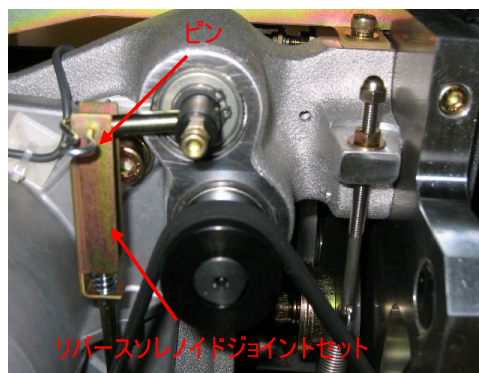
バンドが勢いよく商品に巻付かない場合、逆転タッチ圧を調整します。

逆転タッチ圧の調整方法

- 1 ピンを抜きます。
- 2 リバースソレノイドジョイントセットを右に回すと逆転タッチ圧が強くなります。

調整時の注意事項

1回転ずつ回して調整してください。



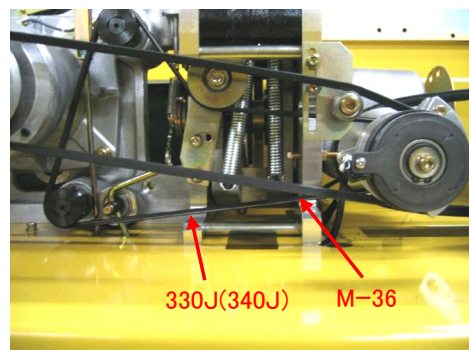
【チェック項目 22】 ベルトの消耗やベルトのゆるみ

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: 330J(340J)、M-36の調整と交換

ベルト330J(340J)、あるいはM-36が消耗している、あるいは緩んでいる場合、バンドの戻りが安定しません。調整または交換を行います。

⇒ 23ページの「ベルトの交換方法」をご参照ください



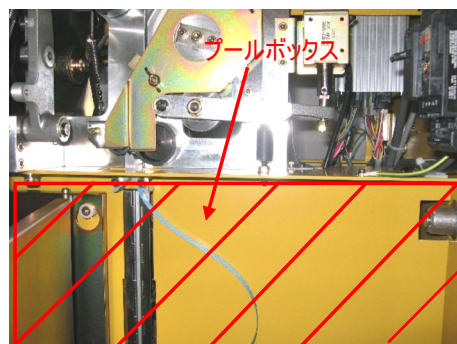
【チェック項目 23】 プールボックスのバンド量

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: プールボックスのバンド量調整

プールボックスには、通常アーチサイズの1.5倍のバンドが溜まっています。量が多すぎるとバンドを巻き戻す時に不具合が発生するため調整します。

⇒ 19ページの「プールボックスのバンド量調整」をご参照ください。

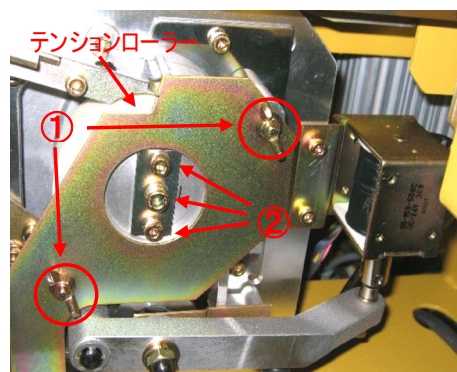


【チェック項目 24】 テンションローラーの摩耗

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: テンションローラーの交換

指でテンションローラーの摩耗が確認できれば交換をしてください。①のチョウナット×2本を外し、②のキャップボルト×3本を外し、交換します。



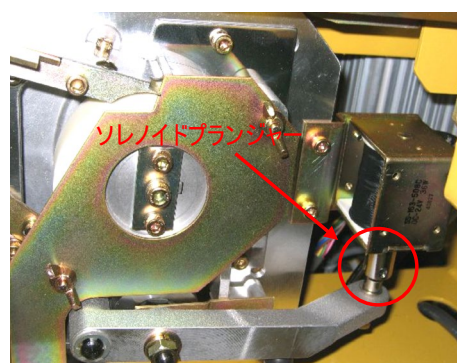
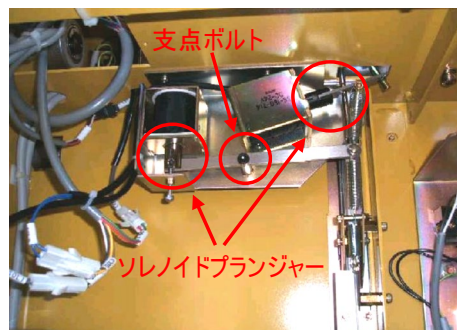
【チェック項目 25】 ソレノイドの動き

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: ソレノイドプランジャーの掃除・部品交換

ソレノイドプランジャーを手で動かしたとき、軽く動かない場合、ソレノイドプランジャー部分を清掃します。

また、支点ボルトが緩んでいる、あるいは破損している場合は交換してください



【チェック項目 26】 アーチカバーの隙間

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: アーチカバーの隙間修正

アーチカバーの隙間がバンド幅より狭い場合はアーチカバーを広げて隙間を調整します。



【チェック項目 27】 電磁ブレーキの効きと 原点位置

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

正常な原点位置は機械が停止しているとき、

- ・「カムの目印穴」と「割ピン」が水平に近い写真のような状態で
- ・「矢印」の向きが真上から左右45度以内の位置となります。

原点位置がずれている場合は「電磁ブレーキの掃除」あるいは「原点位置の調整」を行います。

■ 点検・修理方法： 電磁ブレーキの掃除と調整

電磁ブレーキの掃除と調整方法

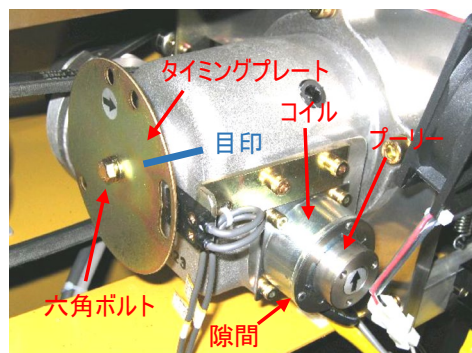
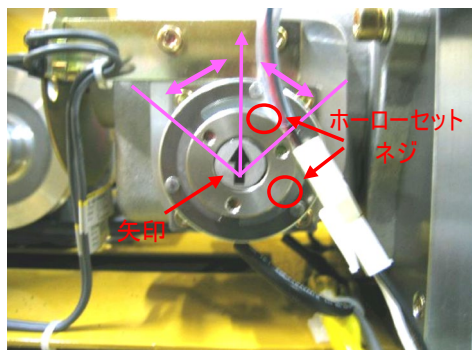
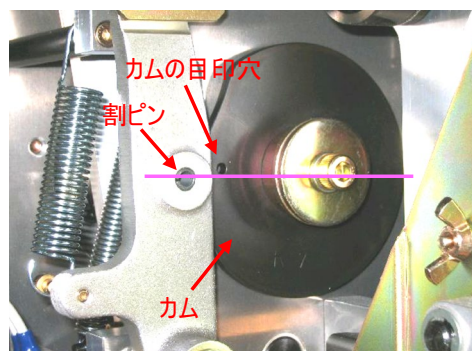
- 1 プーリーにある2本の六角穴付き止ネジ(ホーローセットネジ)を緩め外します。
- 2 プーリーとコイルの間(隙間にあたる部分)を掃除します。
- 3 名刺一枚分の隙間(約0.3ミリ)を空けてプーリーを取り付けます。
- 4 試運転を行います。原点位置が再度ずれる場合はプーリーの隙間を少しだけ狭くします。

■ 点検・修理方法： 原点位置の調整

電磁ブレーキの掃除と調整を行っても原点位置がずれる場合は原点位置を調整します。

原点位置の調整方法

- 1 タイミングプレートに目印を付けます。
- 2 正常な原点位置になるようにプーリーを回します。
- 3 六角ボルトを緩めタイミングプレートを目印の位置に合わせます。
- 4 試運転を行い、原点位置で停止するか確認をします。
- 5 原点位置に合わない場合はタイミングプレートを微調整していきます。



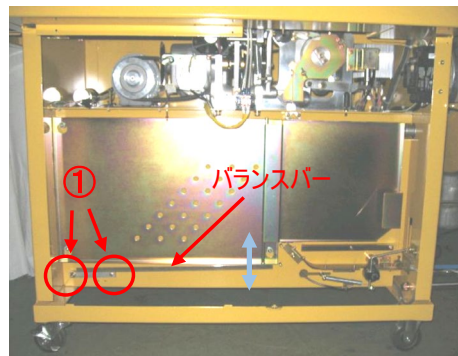
・プールボックスにバンドがたまらない

【チェック項目 28】 バランスバーの動き

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: バランスバーの修正または交換

バランスバーの動きが変わると、正常にバンドがたまらなくなります。バランスバーを上下に動かした時に、ボディに接触している場合は、①のプラスネジを外し、バランスバーの歪みを修正、または、バランスバーを交換します。

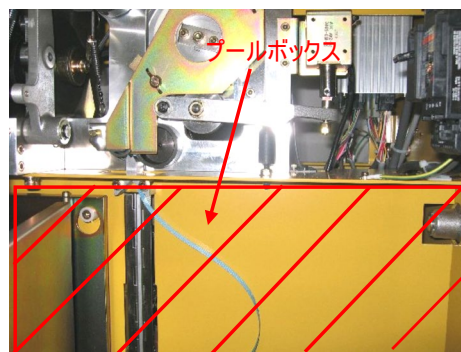


【チェック項目 29】 プールボックスのバンド量

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

■ 点検・修理方法: プールボックスのバンド量調整

プールボックスには、通常アーチサイズの1.5倍のバンドが溜まっています。量が少なくても、多すぎても不具合につながる恐れがあります。

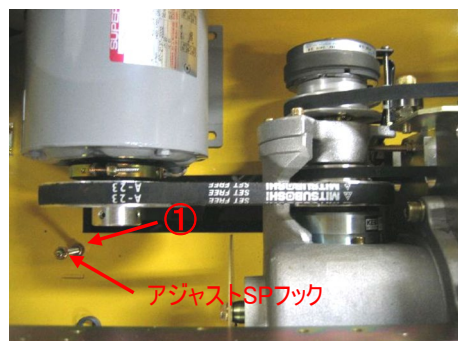


プールボックスのバンド量調整方法

- 1 アジャストSPフックの根元にある①ロックナットを緩めます。
- 2 アジャストSPフックを左に回すとバンド量が増えます。
アジャストSPフックを右に回すとバンド量が減ります。

調整時の注意事項

- ・ 1回転ずつ回して調整してください。
- ・ プールボックスのバンド量は標準機(アーチサイズ:W650×H500)の場合に約3.5m程度が目安となりますが、ある程度の誤差は発生します。



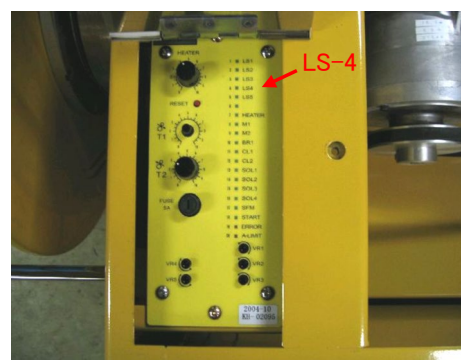
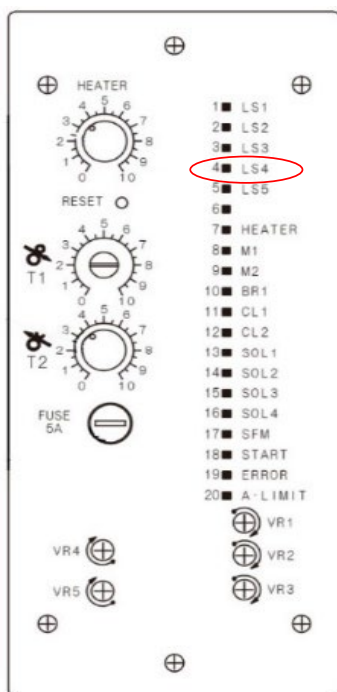
【チェック項目 30】 LS-4の反応

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行ってください。

- ・本項目では電源をONにした状態で確認を行います。必ず停止SWを押し、機械を動かない状態にしたうえで確認を行ってください。

■ 点検・修理方法: LS-4の反応確認

機械のリアパネルを外すとLS-4があります。
LS-4を手でON、OFFし、制御基盤のLS-4表示ランプが点滅しなければ交換します。



【チェック項目 31】 ブレーキベルト

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■ 点検・修理方法: ブレーキベルトセットの交換

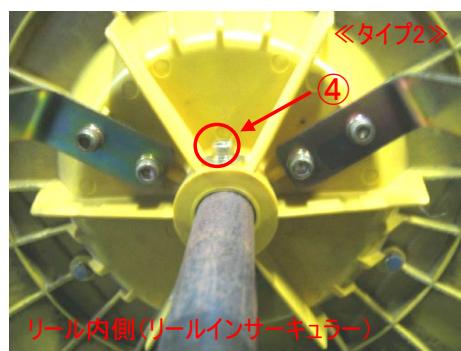
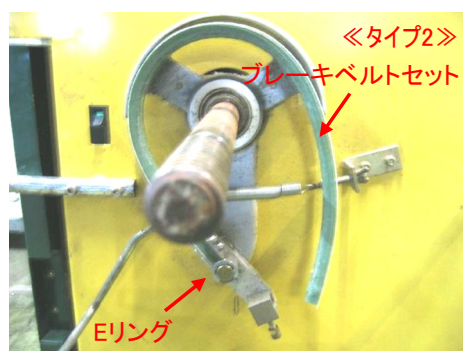
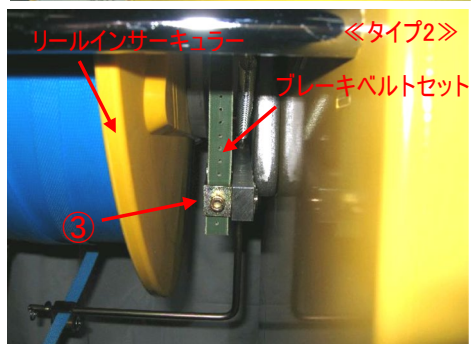
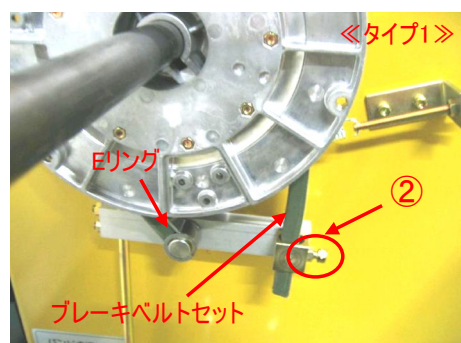
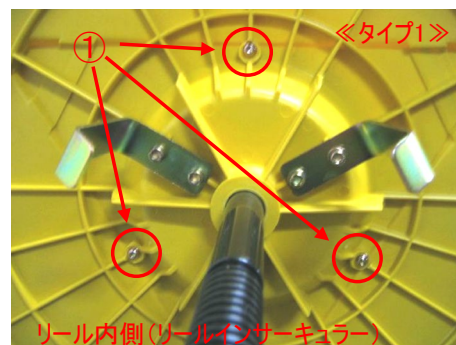
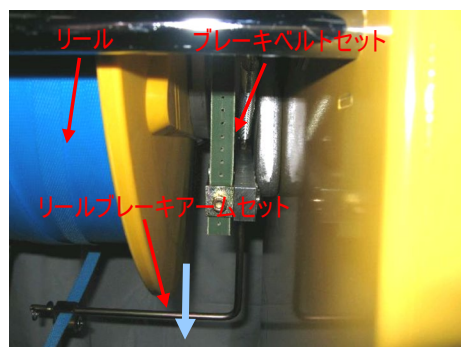
リールブレーキアームセットを下げ、リールを手で
回した際、回らないのであればブレーキベルトセットを
交換します。

ブレーキベルトセットの交換方法 《タイプ1》

- 1 リールインサーキュラーの ①ボルト×3本 を外します。
- 2 リールインサーキュラーを外します。
- 3 ②のロックナットを緩め、キャップボルトも緩めます。
- 4 Eリングを外し、ブレーキベルトセットを交換します。
- 5 ブレーキベルトセットの端から2～3個目の穴に②の
キャップボルトが当たるように調整し、元通りに組みます。

ブレーキベルトセットの交換方法 《タイプ2》

- 1 ③のロックナットを緩め、キャップボルトも緩めます。
- 2 ④キャップボルトを外します。
- 3 リールインサーキュラーを外します。
- 4 Eリングを外し、ブレーキベルトセットを交換します。
- 5 ブレーキベルトセットの端から2～3個目の穴に③の
キャップボルトが当たるように調整し、元通りに組みます。



・バンドが切れない**【チェック項目 32】 バンドのカット面を確認**

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

■ 点検・修理方法: カッターの交換

バンドが引きちぎったようになっていれば、カッターの
交換が必要です。販売店またはストラパックの最寄り
営業拠点 (P.24参照) にご相談ください。

・ベルトの交換

【チェック項目 33】 ベルトの交換

注意・1ページ目の「修理における安全上の注意」をご確認
いただき、安全に十分注意を払いながら修理を行って
ください。

ベルトの交換方法〔330J(340J)、A-23、M-36〕

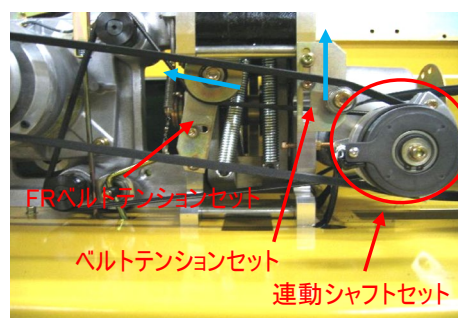
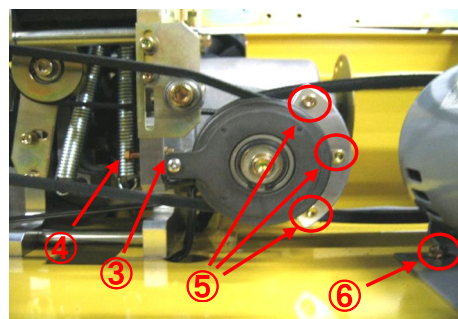
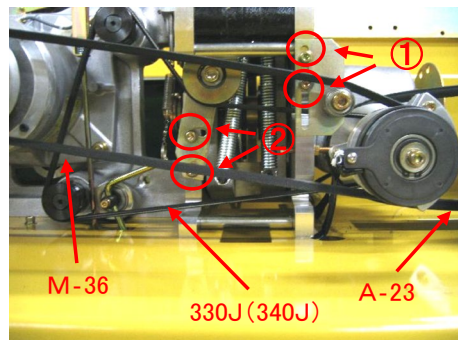
- 1 ①キャップボルト×2本、②キャップボルト×2本を
緩めベルトの張りを緩めます。
- 2 ③ロックナットを緩め、④の六角ボルトを外します。
- 3 ⑤キャップボルト×3本を外します。
- 4 連動シャフトセットを取り外し、ベルトを交換します。
- 5 元通りに組み付けます。
- 6 最後にベルトの張りを調整します。
 - ・ 330J(340J)はFRベルトテンションセットにより
調整します。
 - ・ A-23はモーターを取り付けている⑥のキャップ
ボルト×4本を緩め、張りを調整します
 - ・ M-36はベルトテンションセットで調整します。

調整時の注意事項

組み付けの際、④の六角ボルトを取り付けるとき、
連動シャフトセットに当たったところで③のロックナットを
締めてください。④の六角ボルトは締め込む必要は
ありません。

ベルトの交換方法〔M-36のみ場合〕

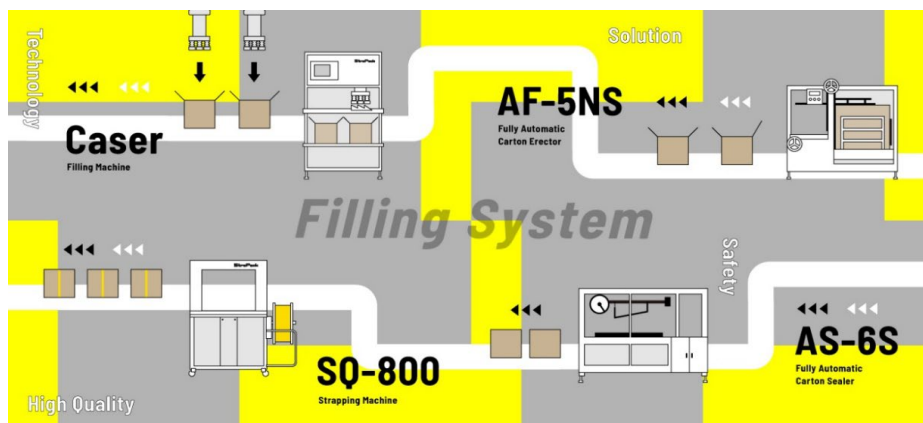
- 1 ①キャップボルト×2本を緩めます。
- 2 ベルトの張りを緩め、ベルトを交換します。
- 3 元通りに組み付けた後、ベルトテンション
セットでベルトの張りを調整します。



・営業拠点一覧

ストラパック株式会社

修理のご依頼やご相談をされる際は、お買い上げの販売店、ストラパックの営業拠点またはストラパックホームページの「修理に関するお問い合わせ」からご連絡ください。→ <http://www.strapack.co.jp/maintenance>
ご連絡の際は、製品左側面に記載の「機種」、「機械番号」および故障状態をお伝えください。



・本社	東京都中央区銀座8-16-6 銀座ストラパックビル・・・	TEL:03-6278-1801 FAX:03-6278-1800
・カスタマーサポートセンター	横浜市神奈川区菅田町2800	TEL:045-475-7245 FAX:045-475-7252
・営業企画室	横浜市神奈川区菅田町2800	TEL:045-475-7211 FAX:045-475-7220
・札幌支店	札幌市中央区大通東9-1	TEL:011-241-6335 FAX:011-222-3728
・旭川SSP	旭川市十条通22-1-12	TEL:0166-34-9597 FAX:0166-34-9534
・仙台支店	仙台市若林区鶴代町2-11	TEL:022-232-7459 FAX:022-231-0779
・郡山営業所	福島県郡山市八山田4-125	TEL:024-938-7210 FAX:024-932-2977
・盛岡SSP	岩手県盛岡市緑ヶ丘3-4-33-102号	TEL:019-601-9531 FAX:019-601-9557
・東京支店	東京都北区浮間3-14-4	TEL:03-3965-6181 FAX:03-3558-0240
・筑波SSP	茨城県石岡市山崎1028-2	TEL:0299-46-4551 FAX:0299-46-4553
・横浜支店	横浜市神奈川区菅田町2800	TEL:045-475-7260 FAX:045-475-2260
・甲府SSP	山梨県甲府市幸町13-21	TEL:055-232-6405 FAX:055-232-6404
・高崎支店	群馬県高崎市上並榎町113-1	TEL:027-370-2181 FAX:027-370-2026
・新潟SSP	新潟市東区粟山1-20-18	TEL:025-384-8601 FAX:025-384-8605
・名古屋支店	名古屋市守山区白山1-1003	TEL:052-769-0251 FAX:052-769-0261
・北陸SSP	石川県金沢市東力4-97-10	TEL:076-292-6027 FAX:076-292-0247
・静岡営業所	静岡県焼津市三ヶ名382-1	TEL:054-628-1315 FAX:054-628-2025
・大阪支店	大阪市西淀川区佃5-5-2	TEL:06-6473-7241 FAX:06-6473-7236
・岡山営業所	岡山市北区今8-13-17	TEL:086-244-4112 FAX:086-243-3470
・高松支店	香川県坂出市府中町5573-6	TEL:0877-48-2114 FAX:0877-48-2142
・広島支店	広島市南区東出雲本町2-10-28	TEL:082-282-3011 FAX:082-283-9210
・福岡支店	福岡県太宰府市水城3-12-34	TEL:092-921-3400 FAX:092-925-2332
・鹿児島営業所	鹿児島市伊敷町4743-3	TEL:099-228-7611 FAX:099-228-7600
・沖縄SSP	沖縄県浦添市宮城3-10-1-B102	TEL:098-879-4515 FAX:098-879-4515